

第55号  
2024年6月1日

〇発行  
社会福祉法人  
鳥取こども学園

鳥取市立川町5丁目417番地  
電話 (0857) 22-4206  
<http://www.tottorikodomogakuen.or.jp/>

題字 尾崎悌之助

# 鳥取こども学園 学園だより



## 平和を創り出すあゆみでありたい

社会福祉法人 鳥取こども学園

常務理事 山本隆史



「平和を実現する人々は、幸いである」

(マタイ5章9節)

この世の中に生きている人々の基本的な願いが、「平和な環境の中で、平和な人生を送りたい」であることに異論を唱える人はいないでしょう。しかし、この願いは、その主語が「自分が」「自分の周りが」なのか、「全世界が」「みんなが」なのかで大きく意味が異なってきました。実際に2022年2月に戦争が始まったウクライナでは民間人の死者は1万人を超え、内500人を超えています。そして、2023年10月に始まったパレスチナ・イスラエル戦争により深刻な人道危機が続くガザ地区の死者数は3万3千人を超え、内1万3千人を超えることもたちが犠牲になっています。これらの国の人々も、そして、これらの国を動かす首脳陣たちも「平和」を望む気持ちは変わりないはずですが、しかし、これほどの平和を望む尊い命が無残にも奪われている事実があります。残念ながら「自分たちが」「自分の国が」「平和である」ことが最優先にされており、冒頭の聖句の「平和を実現する」にはほど遠い考えと言わざるを得ません。

では、私たちはどうでしょうか。日々伝わってくる惨状を耳にし「やはり戦争は起こしてはいけない」「全世界が平和になるようにしなくてはいけない」という思いや願いは当然のよう

に心に浮かんできます。もし、この聖句が「平和を切に望む人々は、幸いである」であれば、私たちは該当すると言えますが、そうではなく「実現する人々」というところに難しさがあります。例えば、誰かがロシアやウクライナ、イスラエルやパレスチナに行き、間に立ち、両国が納得する形で戦争を終わらせることができるかという点、「そんな簡単なものではない」と私たちは心のどこかで理解しているのも、ある意味事実ではないでしょうか。

「礼を失せず、自分の利益を求めず、いらだたず、恨みを抱かない。」

(第一コリント12章5節)

なぜ、争いが起こるのか。右記の聖句は法人の理念でもある「愛」が示された第一コリント12章からですが、これらを「礼を失し、自分の利益を求め、いらだち、恨みを抱く」と逆の表現にすれば、争いをしてしまう人間の弱さが見えてきます。特に「礼を失す」とは相手に敬意を持たないこと、相手の立場や事情を理解せず、自分の正しさを押しつけることです。たとえ、自分の考えが正しくても、相手が納得し理解し伝わらなければ、それは「礼を失した」言動の結果と言えます。このような心の状態というのは、大なり小なり人間であれば持っているものですし、当然「知命」を過ぎた私も、時にこのような心持ちになってしまいます(自戒の

日々です)。この状態では互いに「なぜ正しいことをしないのだ」「なぜ自分の思いをわかってくれないのだ」という「いらだち」が生まれ、それが互いに「恨みを抱く」という状況を生み、さらにお互いが自分の正しさを主張するようになり、最悪、争いが起こってしまつ。これが国と国の中で展開されれば「戦争」になるのは一目瞭然です。

「わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしておくれたいことのある。」

(マタイ25章40節)

平和を「実現する」ことは、とても難しいことです。だからといって諦めてしまつこともまた違います。「実現する」ための「創り出す」努力をしなければ、平和の日の訪れはありません。しかし、その努力は、何か壮大な計画を立て、それに向かって大きな行動を起こすというものでもありません。まずは、自分の周りの人々の立場や事情を理解し、相手を大切にすること。困っている人々がいたら、手を差し伸べ、寄り添い、共に歩むこと、そのような日々の実践・あゆみが大切になります。その一つ一つの積み重ねを通して「平和」の実現に近づいていくものと私は信じています。

社会福祉法人鳥取こども学園は、先達の「困っている人々がいたら、手を差し伸べ、寄り添い、共に歩むこと」、つまり法人理念「愛」大切にすることの実践から始まり、これまで118年余り一つのあゆみを、そして日々のいとなみを大切にしながら進めてまいりました。これも、皆様のご理解、ご支援の賜物と心より感謝申し上げます。今後も、この法人理念を元に、私たちのあゆみを「みんなの平和の実現」に少しでも近づくものとなるよう進めてまいりますので、変わらぬご理解、ご支援いただけますよう、つづつ、ひたすらお願い申し上げます。

児童養護施設

鳥取子ども学園

「はちみつ」が  
できました

一時養育ホームはちみつ

チーム長 竹下 敏

学園だよりを読んでくださる皆様、はじめまして。いつもご支援くださって、感謝です。

この4月、鳥取子ども学園に、新しいお家がありました。「一時養育ホームはちみつ」といいます。かわいい名前です。

「はちみつ」は、皆さんがよく知る「ホーム」「家」とは、少し違います。地域で生活している子どもたちが、お家から離れて、少しの間生活をする「一時的な」生活の場です。

はちみつに、楽しみを抱いてやっていく子どもさんいますが、慣れない場所でも良く知らない大人と過ごすことは、どうしても不安が付きまとうもの。子どもさんに共通しているのは、みんな、不安を抱いてやっていくということです。

今までも、乳児院と児童養護施設の一

時養育所で、子どもたちの不安を少しでもなくする工夫を積み重ねてきました。

はちみつでは、更なる工夫として、0歳〜18歳までの子どもを一つのお家でお預かりします。今まで年齢によって2つの施設に分かれて生活していたきょうだいも、一つ屋根の下で過ごすことができます。

更に、親子でお泊りする場所もできました。子育てにちよつと疲れた方が、少しお家を離れて、親子でほつとできる所です。

この大きな変化に挑戦するため、職員の数も、8人の大所帯となりました。チーム長も2人です。職員同士支えあい、利用する皆さん1人1人に寄り添い、時には向き合い、安全と安心を共に創るチームになりたいなと思っています。その礎となるのは、学園の理念である「愛」と「お大切」の精神です。

子どもたちは、家庭という名の花から、文化という蜜を持ち寄ってくることでしよう。そして、ここで混ぜあつていくのです。どんな「はちみつ」が創られるのか、今から楽しみでなりません。

はちみつの蓋を開けて

一時養育ホームはちみつ

チーム長 前田 明子

今年度「一時養育ホームはちみつ」のチーム長をさせていただく事となりました。ホーム名を新しく決める際、このホームが、ホツと一息つける場所でありたいと思ひました。はちみつにはそんな、ほつと一息 という意味があること、響きも優しく、あまーいイメージが新しいホーム名にぴつたりだと思ひました。はちみつホームに来たらほつと少し気を抜くことが出来る、ここがあつて良かった」と、いい意味で力が抜ける場所であるといいなと思ひます。日々を頑張つている大人や子どもに寄り添い、温かく笑顔があふれる所にできたらうれしいです。

実際4月からわくわくした気持ちでホームに入ると、子どもたちは「この人は誰だ?」と不思議そうな顔、わくわくしている顔、不安そうな顔、色々な表情を見せてくれました。ホーム名も「前のすみが良かった」。なんでではちみつに変わつただ?と変化に戸惑つている様でした。当然の反応だよなと感ぜると同時に、それでも話しかけると反応を返して一緒に遊んだり、お喋りをしたり、子ども達

はとても優しく、可愛くて、素直な反応が嬉しかったです。日々の小さな喜びを感じられる感性を忘れず、わくわく、楽しいを大切にしていきたいです。そのためにも私たちの心と体が健康であることが受け入れる大人や子どもたちの笑顔につながると思ひます。自分を大切に、相手も大事にしなから、新しいはちみつホームをみんなで作つていきたいです。

調理員としての想い

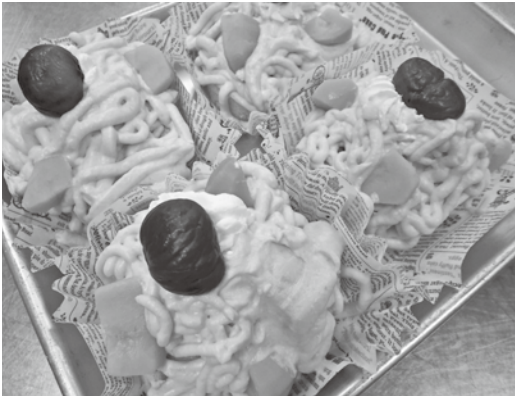
調理員 矢田 ちよき

調理員として勤務し昨年定年を迎えました。朝鳥取みどり園に2児を預け、仕事帰りに迎えに行く日々。

私自身も鳥取みどり園の卒園児なので懐かしくもあり感慨深いものがありました。早朝早番の日はとにかく寝坊が怖くて目覚まし時計を枕元に3台セットし、大音量の中で起きていました。大先輩の後ろ姿を見ながら仕事を覚える日々。大量の食材と格闘しながら、火加減や味付けの難しさや提供時間に間に合つよう二段取りを考えて作るプレッシャー。(現在は大型業務用エアコンのおかげで暑さ寒さ知らずですが)当初は夏は2台の壁掛け扇風機で暑さをしのぎ、冬は1台のガスストーブで暖をとり、手がしびれる

程冷たい水での米とぎ。失敗を重ねながらも今まで続けてこられたのは、先輩からの温かい声掛けや同僚との切磋琢磨した日々の賜物だと思っています。昨年度からは嘱託職員となりましたが、まだまだ学ぶことは多く、同僚の皆様のお知恵を借りながら日々精進していこうと思っています。

現在調理部門では、チーム長発案の『後世に残す学園の味』をテーマに調理員全員が味付けを3段階で評価し、『レベルアップしたレシピ作り』を実践中です。又、月一回『手作りおやつの日』を設け、いちご大福、みたらし団子等の和菓子から、あじさいゼリー、りんごごさつま芋のマフィン等の洋菓子まで『季節のお菓子作り』を行っています。失敗し



たときにはご愛嬌と子ども達には許してもらっていますが、「美味しかった! また作って!」と言われた時には「頑張ってたよかった」としみじみ感じています。学園の伝統として学んだ事と新世代の考えをすり合わせ、『子ども達の幸せ』の為に何が出来るかを考えていけたらと思っています。



◆こすもすホーム

新任職員の自己紹介



保育士  
坂根有紀

4月からこすもすホームに職員として入りました。好きな遊びは、バトミント

ンです。ホームの職員と連携し、子どもたちが安心して生活できるように努力したいと思います。よろしく願います。

◆ひまわりホーム



保育士  
畑中晃新

今年度からお世話になります。ひまわりホームの畑中晃新です。まだ、鳥取短期大学を卒業したばかりで、社会経験が少なく、ご面倒をおかけすると思いますが一生涯懸命頑張りますので、どうかご指導のほどよろしくお願いいたします!

児童心理治療施設  
鳥取子ども学園希望館

すだちの豊作と  
新たなスタート



館長  
水野壮一

この春、希望館はすだちが豊作でした。すだちと言っても徳島県名産の柑橘

類ではなく、「巣立ち」のことです。それぞれの巣立ちのタイミングが重なって希望館開設以来最多、実に12人もの子どもたち(入所部門8人・通所部門4人)の子どもたちが希望館から立派に巣立っていきました。

県外の大学・専門学校等に進学する人、短大を卒業して就職する人、分校分教室からの卒業やステップアップ、家族との生活を再開する人:喜ばしくカラフルな1人ひとりの巣立ちです。中には10年以上希望館で生活をした人もいます。3月中旬は毎日のように希望館のあちこちでお別れ会やパーティーが催され、成長ゆえの惜別へのうれし涙と、様々な思い出を語り合う笑顔が溢れました。

私のところにも巣立つ人たちが入れ替わり立ち代り報告と挨拶に来てくれました。それぞれが「合格した!!」「この道に進むと決心した」「アパートの契約ができました」という巣立ちに向けた報告、「今までありがとう」「頑張るね」「また顔を見せに来るよ」「水野さんも頑張るんさいよ」という別れや励ましの挨拶、そしていよいよ迎える見送りの日:手を振って遠ざかるその姿はどれも喜ばしく尊い。そんな「すだちの豊作」となったのです。さて、開設以来最多の巣立ちがあったので、令和6年度の希望館入所部門は21人の入所見でスタートすることになりました。

した。これはこの10年で最少の人数です。そこで9年間続けてきた5ホームによる支援体制から、「こぼと・わかば・さつき・しらゆり」の4ホームでの運営へと変更することになりました。少しコンパクトになりましたが、大切にすべきこと

《一人ひとりの尊厳を守る》・紡ぐべき支援《総合環境療法》に揺らぎや縮小が生じることなく、子どもと大人とのパートナーシップを土壌とする豊かなすだちの裏りに向けて、精一杯頑張っていけます。

そして、この改変は希望館の新たなスタートでもあります。これを機にこれから先の時代における児童心理治療施設・希望館のニーズと使命とは何かを見つめ、より良い在り方を希求する機会を得たと考えます。すだちの豊作(＝子どもたちの成長)がもたらしてくれた新たなスタートに、あたたかい応援をどうぞよろしく願います。

新任職員の自己紹介

◆男子ブロックフリー



児童指導員  
谷 繁 昂

皆様はじめまして。本年度よりお世話になります。分からないことだらけの

毎日ですが、少しずつでも職員の皆さん、ごもたちの力になれるよう頑張ります。皆さまどうぞよろしく願います。

◆わかばホーム



保育士  
竹 内 奈 々

4月から希望館わかばホームでお世話になっていきます。まだまだ分からないことが多く、みなさんにはご迷惑をおかけしていますが、子どもたちと過ごす中で少しずつ成長していけたらと思います。よろしく願います。



セラピスト  
四 元 紀 子

日々、学ばせていただくことばかりですが、鳥取こども学園での新しい生活の中で、様々な方々との出会いを大切にしながら、1人1人に寄り添う心理支援に努めていきたいと思えます。どうぞよろしく願います。



セラピスト  
坂 田 彩 乃

初めてで不慣れなことも多いですが、先生方や子どもたちから日々学び、成長しながら頑張っていきたいと思えます。これからよろしく願います。

乳児院  
鳥取こども学園乳児部

気づき

看護師 三 中 加奈子

今年も学園前の土手沿いには満開の桜が咲き春の訪れを知らせています。

鳥取こども学園に勤め始めてから今年で9年目になります。これまでホーム職員として子ども達と関わらせて頂いて感じたことを綴ろうと思えます。

ホーム所属である看護師の役割として何が出来るだろうか...と考えた時に思い浮かぶのは怪我の手当や急病時の対応などです。土日で学園内の看護師が不在の場合、インターホンがかかってくる事が今までに何度かありました。お腹の痛み

を訴えた子、遊びに力が入りすぎて足に怪我をした子などがいます。そのような場面を通じて、微力ながら子ども役に立てているのではと実感することがあります。今は法人内の看護師の数も増え、ナースの会を通して勉強することも多々あります。看護師の輪を広げ、これからも助け合っていけたらと思います。乳児部で出会ったこどもの数だけ驚きと発見の連続です。私が今までに担当した子どもの中で特に印象深いのは、初めて受け持ったAちゃんです。Aちゃんは人見知りが強く、打ちとけるまでは一定の距離を保っていました。Aちゃんとの距離が縮まると、今度は激しいぐずりと向き合う事となります。その当時はぐず



りに対してどう向き合えばいいのかも分  
からず、ただ時計だけを眺めるような時  
間を過ごし、気概のある人とはほど遠  
かったです。悩んだ時にはホーム長や先  
輩職員に相談し、共感してもらえたりア  
ドバイスを頂いたりし、前を向けたよう  
に思います。

年月が経ちAちゃんが児童養護施設へ  
措置変更となり数年が経った頃、突然  
「お出かけしたい」と言い私と外出する  
事になりました。乳児部に居た頃より随  
分お姉さんになったAちゃんとの外出  
は、とても新鮮であったと同時に、おそ  
らく育ちのルーツを辿り頼ってきてくれ  
た事が本当に嬉しかったです。私自身初  
めての担当であるAちゃんに対し、手探  
りであったため悩んだことも事実です  
が、気持ちを向けていたことが子どもに  
伝わって、子どもの中で存在していたこ  
とを感謝したいと思います。

当法人は、キリスト教精神に基づいて  
創立されました。基本理念は『愛』です。  
愛は忍耐強い。愛は情け深い。ねたまな  
い。愛は自慢せず。高ぶらない。礼を失  
せず、自分の利益を求めず、いらだたず、  
恨みを抱かない。不義を言はず。真実を  
喜ぶ。」「リントの信徒への手紙―第13  
章より一部抜粋)

朝会に参加する時は夜勤明けのため、  
前日の夕方から直前まで子どもと関わっ

ている事もあり、時には心がざわついてい  
る時もあります。そんな時だからこそ聖  
書を輪読したり、主の祈りをする事によ  
って心にゆとりが生まれます。9年目であ  
っても未だに朝会は慣れず緊張しますが、  
原点に立ち返って学園に居るといふ帰属  
意識が生まれる場所だと捉えています。

ここまで長い話を一つ一つと書いてき  
ましたが、私が伝えたいことは、子ども  
の前では看護師も保育士も児童指導員も  
その他職種も関係なく、1人の人間とし  
て正面から向き合い続けることが大事で  
はないかということ。向き合う時に  
は基本理念のように愛を持って、思いや  
りや優しさをこれからも大事にしたいと  
思います。その気持ちは大きくなったA  
ちゃんのように、いつか子どもにじんわ  
りと伝われば幸いではないだろうかと思  
っています。

乳児部で過ごす期間は0歳から概ね  
3歳までと短い期間ですが、その期間で  
愛着を育むことは、その後の心の発達  
に、大きく影響します。乳幼児期に愛着  
に基づいた人間関係が存在することが、  
その後のこどもの社会性の発達には重要  
な役割を果たします。子どもに対し、愛  
されて守られていることを伝え、安全基  
地となるのが我々の務めだと信じこれ  
からも向き合っていきたいと思えます。

### 認定こども園 鳥取みどり園

#### 今 大切にしたいこと



園長  
西 垣 恭 子

新型コロナウイルスが5類に移行し、  
今年是新入園児の多くのご家族の皆様・  
地域の皆様を迎えし第74回入園式が賑や  
かに挙行できました。19名の入園児と進  
級した128名の子どもたちが、神様の  
愛の中、これから始まる園生活の場で夢  
と希望をもち、好きな遊びを見つけて遊  
び、楽しみ、もめることも、失敗も、挑  
戦も繰り返し、その時々を精一杯楽しむ  
1年であってほしいと願います。

さて、本園は学園の敷地内や周辺の恵  
まれた自然環境を活かし楽しむことを教  
育保育の特色とし、キャッチフレーズは  
『春はさくら見、夏は蝉取り、秋はどん  
ぐりを拾って、冬はダイナミックに雪遊  
び』です。

園前の天神川の土手に長く続く桜並木  
は春になると辺り一面を桜色に染め、そ  
れは優美な世界を作りだしてくれます。

夏になると桜並木や学園内の多くの木々  
に蝉がやって来、秋になるとグラウンド  
周りのコナラやクヌギの木から落ちてく  
るどんぐりをポケット一杯に拾うことが  
子どもたちの嬉しい日課となります。そ  
して、冬の楽しみは、辺り一面真っ白な  
グラウンドで思いっきり身体を動かして  
雪遊びがのびのびと楽しむことです。

このように、本園は、町中に位置しな  
がらも、芝生の広いグラウンドや砂場の  
ある園庭、園児農園があり、園外へ出掛  
けなくても、年間を通し、子どもたちは  
四季折々の自然に触れ生き物と関わる生  
活や遊びを思う存分楽しんでいきます。

この、本園の特色としています自然と関  
わる生活ですが、現在、子どもを取り巻  
く生活環境の場には、インターネット、ス  
マホやタブレット、ユーチューブなどが急  
速に普及し身近なものとなってきました。  
また、バーチャルを通じた体験も可能とな  
る中、映像で見たいものが見られ、知り  
たいことも知れることから、子どもたちは  
未知の自然界の物事でも見たような知った  
ような感覚になってしまうのではと…。

しかし、今後いくらーTやAが発達  
しても、自然と関わる直接体験の場で感  
じられる土のぬくもりや日向の温かさを、  
ままごとに使う四季の草花から香る様々  
な匂い、雨上がりに虹の橋を見つけた時  
の感動や、雨に濡れた葉っぱの上で遊ぶ

カタツムリを見つけた時の喜びや見つけた虫を大事に育てたいなどといった思いは、映像では感じられない思いや貴重な体験となることでしょう。更には、このような本物と触れ合い、遊び、関わる体験は、大人へと向かう子どもたちが自然を大切にしようとする心へと繋がって来るものと思います。

今年も本園の恵まれた自然いっぱい環境を、五感を働かせながら思う存分楽しむ1年としたいと思います。

### 縁を大切に



副園長  
山本裕美

やわらかな春の日差しに囲まれた4月。新入児19名を新たに迎え、総勢147名のみどり園での生活がスタートしています。

年度末に30名の年長児を小学校という新しい環境へ送り出し、寂しさを感じていましたが、何名かの子どもたちがランドセル姿を見せに来てくれ、卒園してもみどり園とのつながりを持つとうとしてくれることにうれしさを感じました。

この3月に私が年中児、年長児と2年間担任を受け持った子どもの多くが在籍

している東中学校の卒業式に来賓として出席させて頂く機会がありました。卒業生名簿の名前を見て、当時の子どもたちの姿が一気によみがえり、懐かしさでいっぱいになりました。卒業式の中で証書授与の場面では顔と名前を見返しなから、「あー変わっていないな」「大きくなったな」「すっかり大人になって」とその成長に驚くと同時に当時の色々な思いが込み上げてきました。

みどり園では他園よりも職員の変動がほとんどないことから、職員の顔ぶれが変わることが少ないです。

そのせいもあり、引越いや家庭の事情で退園した子どもたちが数年後に会いに来てくれた時に、顔見知りの職員がたくさんいることに大変驚かれ、喜んで下さいます。又、当時受け持った子どもたちが保護者としてみどり園を利用して下さることもあります。以前も卒園生だった保護者の方が、まだ新人だった頃の私の姿が写っている写真を「先生ですよ」と見せて下さり、その出会いに「縁」を感じました。卒園や退園してもみどり園を思いつなかりを持って下さることに感謝しています。縁あって出会った方々から更に多くの出会いがあります。その出会いを大切にしながら、地域の方々とのつながりを持ちながら、みどり園と人の縁を大切にしていきたいです。

### 新任職員の自己紹介



保育士  
谷口 加奈子

前にもどり園で3年間働いていたことがあり、今回で2度目の出会いとなりました。2度目ですが、改めてフレッシュな気持ちで働き、子どもにとっても大人にとっても安心できる存在になりながら、楽しくてあなたがかい丁寧な保育をしていきたいと思っています。よろしくお願いします。

ありました。

入居している子どもとの関りだけでなく、退所したOB・OGとの関りの中でもいろいろなお話がありました。当然、良い事ばかりではなく、生活が成り立たないOB・OGたちに対して、関係機関の協力を得ながら、手をかえ、品をかえ...と取り組んできました。入居に関する年齢制限(20歳まで)があった時には、制度を超えてOB・OGを再入居してもらい、立て直しをするということもありました。

鳥取フレンドには設立当初から、法や施策に合わせて支援をするのではなく、若者に合わせて支援をしていけば、必ず法や施策が追い付いてくる」という考え方があります。その考えがまた一つ現実となり、今年度から年齢制限が撤廃されます。そういった先人から受け継いだ理念を忘れることなく、初心に立ち返り、目の前の若者や地域のニーズに寄り添った支援に努めて参りたいと考えています。

自立援助ホーム  
**鳥取フレンド**  
**鳥取スマイル**  
**はればれ**

### かわること、

### かわらないこと

鳥取フレンド

寮長 内藤 直人

今年で入職して19年目、鳥取フレンドの寮長を拝命し、11年目になります。寮長になって、10年間、いろいろなことが



## あゆみ

鳥取スマイル

寮長 竹中愛彦

ホームを任されて4年目の春を迎えました。

スマイルでは現在6名の男の子と共に生活をしています。昨年度は子どもとの「対話」をテーマに毎日、職員が子どもひとりひとりと個別で話す時間を持つような取り組みを行いました。職員は子ども達の尽きない悩みや不安に寄り添いながら一緒に解決策を探っていたように思います。1年が過ぎ、毎朝、仕事や学校に向かう彼等の姿はとても頼もしく、私達に日々の対話がどれだけ大切か再確認させてくれたように感じます。

孤立や寂しさを抱えながら社会で苦難している若者達に積極的に関わる為、今年度は新たに「退所後の支援」に挑戦。自立支援担当職員の配置や施設を拡張。緊急対応用の居室の準備、退所者等若者の集まれる居場所の確保を検討しています。

日頃よりご支援いただいている皆様にはご理解とご協力いただき感謝しております。子ども達と職員、一緒になって沢山の笑顔と共に成長して参りますのでよろしくお願ひ致します。

## はればれの3年目

はればれ

寮長 門脇弘道

4月、新たに子どもと職員を迎えホームが明るく賑わっています。これまでの2年間で培われた文化・信念が少しずつではありますがありますが、広く深く浸透している実感しています。はればれでは頻繁に皆で話し合いを行います。話し合いではそれぞれの共同生活の中で思っていることを出し合います。その話し合いは重ねることに分かりあい、お互いの思いやりが生まれてきます。そして、思いやりが生まれると子どもたちにとって毎日、帰る家のような安心できる場所になっているようです。それが何よりも嬉しいです。

はればれにたどり着くことも様々な困難の中にいます。そんなことも大切に尊厳を持って関わり、安心できる生活の場を提供し、自分を肯定的に見つめ直し、自らが選択し決定できるまで待ち、いろいろな失敗を繰り返しながら成長していくことを援助してきました。そして、退所後も支援を続け大人になっ

てゆくことも私たちを見守っています。今年も楽しくはればれへ帰ってまいります。40周年を迎えたいと思っております。40周年を迎える鳥取フレンド、20周年を迎えよう

としている鳥取スマイルとともに3年目のはればれもよろしくお願ひします。

おわりになりましたが、日頃より、自立援助ホームで生きることと職員や職員に対し、温かいまなざしを持って支えてくださり本当にありがとうございます。これからも日々子どもたちと一緒に成長していきたいと思っておりますので、今後とも温かく見守ってください。よろしくお願ひいたします。

### 新任職員の自己紹介



支援員

曲 卓也

4月より、はればれで勤務することになりました曲卓也です。34年間、高校と特別支援学校の職員をしておりました。放課後は硬式野球の監督、コーチをしておりました。これからははればれのことと子どもたちに寄り添いながら頑張っていきたいと思います。よろしくお願ひいたします。

児童家庭支援センター  
子ども家庭支援センター  
「希望館」

### 所長就任のあいさつ

所長 遠藤信彦

このたび所長を拝命しました遠藤と申します。長年、当センターの所長を務めました山中は、昨年度末をもって退任し、今年度より保健師として引き続き当法人につとめております。

私はこれまで児童心理治療施設に9年間、退所児童等アフターケア事業に2年半従事しました。そしてこの12年は、里親支援に携わりました。「支援」と銘打ってはいましたが、実際のところは、こちらのほうが里親のみなさんに支えられ、もり立てていただきながら事業をすすめてまいりました。

里親の話ばかりになりますが、支えられたのみならず、たくさんのお話を教わりました。鳥取県には1200数世帯の里親家庭がありますが、そのなかには、これまで何人もの子どもたちの巣立ちを支えてきた、ベテランの、リーダーの里親たちがいます。里親は、保護を必要とす

子どもを自らの家庭に迎え入れはくみます。それぞれに家風があり、決してひとからげに語ることはできないのですが、それでも、リーダーの方たちには共通するところがありました。

「このことは親戚の誰々が詳しい」「この用事のある日は近所の誰々里親が子どもを預かってくれる」「このことはどここの窓口が丁寧に教えてくれる」「この大事なことは、秘密を守ってくれる児童相談所の誰々さんに相談しよう」「里子とのやりとりがうまくいかない、この悩みは施設の誰々さんに聞いてもらおう」といったふうに、制度にもとづいた公的なものから民間のサービス、頼りになる人物に至るまで、ありとあらゆるつての、支えの手の引き出しを持っていました。人間関係の網の目とシステムの「ネクション」を活用し、しなやかに、さわやかに、子育てに取り組んでいました。さらに、さながら『駆け込み寺』のように、里親仲間の相談にのっていました。理想の子育てをそこに見た気がして、頭

が下がります、すごいですねと尋ねると、「今まで本当に多くの人と、場面に会ってきたからね」とかえされます。

人類は大昔、洞窟で、家族が数世帯集まって一緒に子育てをしていたそうです。そんなに太古の話でなくても、戦前戦後の日本では、ムラ社会の結びつきや

親戚つきあいで、共同した子育てを行っていたと聞きます。人間関係が簡素になった現代社会は、地縁や血縁の結びつきがゆるくなり、息苦しさは少なくなった反面、子育ての悩みを誰に相談しているのかわからない、という話をよく聞きます。

児童家庭支援センターは、相談にいらした方のさまざまな子育て・家庭の悩みに対し、専門的知識と技術をもって相談にあたり、さまざまな資源を紹介し、つなぐことが使命です。教えを受けた里親リーダーたちのように、問題解決の手がかりをいくつもお示しできるよう、精進することを誓いもうしあげ、所長就任の挨拶に代えさせていただきます。なにとぞよろしくお願いいたします。

※子育て・家庭についての悩みや、子どもに関するあらゆる相談に応じています。相談料は無料です。

○電話相談

平日 月曜日～金曜日  
朝8時30分～夜0時

(緊急の場合は、時間外も24時間対応)

○来所相談

開所時間 平日 月曜日～金曜日  
朝8時30分～夕方5時30分

専門の相談員が対応します

新任職員のご紹介



電話相談コーディネーター  
山下芽以

慣れないことが多く、ご迷惑をおかけしたり、お世話になることが多々あると思いますが、自分にできることを積極的に見つけ、頑張っていきます。どうぞよろしく申し上げます。

里親家庭サポートセンター  
いろいろは

「はじめて」を一緒に

センター長 清水 暁子

ある里親は、子どもとはじめて会った日を「記念日」として大事にしています。子どもを迎えるために面会を重ねる里親は、「今日はじめて名前を呼んでくれました」と嬉しそうに教えてくれます。はじめて里親から手紙をもらった3歳の子どもは、担当保育士が読む里親からのメッセージに耳を傾け、なんとも言えない笑顔でうなずきます。一緒に暮らし始

めてしばらくしてから、子どもがはじめて声をあげて泣いたことを教えてくれた里親は、「いい子して我慢していたんだと思う」と言って、涙を流しました。

子どもと里親の出会いには、時に「縁」「相性」「運命」などの言葉を使って表現されることがあります。しかし、「はじめまして」の出会いを迎えてから里親家庭としての暮らしが始まるまで、始まったからも、子ども・里親・支援者の間には、たくさん葛藤が生じます。これは乗り越えようと、里親と支援者が協力し、子どもの受け止め手となろうと努力するかわりそのものが子どもに伝わり、劇的な関係の成長をもたらすのです。私は、乳児院の里親支援専門相談員として勤務した12年で、里親家庭の「いま」には、子どもが里親を必要とした理由や、それぞれの出会いからの成長があることを目の当たりにしてきました。

今年4月1日に施行された改正児童福祉法で、「里親支援センター」が新たに児童福祉施設として位置づけられました。この里親支援センターに求められる役割は、「一貫した体制で」「包括的に」の言葉に表されるように、子どもと里親の出会いを知る支援者が、里親養育を継続的に支援し、里親家庭としての暮らしをもに築いていくこと、と読み取れます。鳥取県には、3つの児童相談所に里親支





「ここに来て2週間、まだ右も左も分かっていない状態ですが、一つ実感したことがあります。それは職員も利用者さんも様々な困難や課題がある中、強く支え合い働いておられること。事業計画にもある「共に育ち合う関係」がしっかりと築かれています。そして職員同士のチームワークの強さ、温かさを実感しています。」



敷地内から湧き出る温泉水



利用者さんの植えた花

しています。

「そついった課題や現状を認識しつつ、今年度は「現状把握」と「自他を知る」この2点について重点を置き、事業展開できればと思っています。」

職員、利用者の皆さんとアイデアを出し合いながら少しずつ実践できればと考えています。

ています。

今後、職員、利用者さんと共に過ごしていく中で、私自身もチームの一員として新しい風を吹き込みながら、歯車の一つであり潤滑油のような存在になれたらと思います。

最後に、はまむら作業所は豊かな自然環境や温泉、そして温かい人達であふれるパワースポットのような場所です。

最近、利用者さんが植えた花の種が芽吹き、皆どんな花が咲くのか、まだかまだか？と日々眺めては楽しみにしています。この学園だよりが発行される頃にはきっと、色とりどりの花が顔をのぞかせてくれていると思います。

もしお近くに來られることがありましたら、ぜひお立ち寄り頂けたらと思います。

診療所

### じじいの発達クリニック

興一じじちゃん

(会長)の復活



精神科医

川口孝一

今日は3月31日イースター(復活祭)です。昨年もイースターのこの日に学園だよりの原稿を書いていました。その時にはその後9月10日に会長藤野興一が天に召される事になるとは思ってもいませんでした。その時の私の学園だよりのテーマは「復活」でした。

藤野興一にもイエス・キリストのような復活はあるのでしょうか。ノンフィクション作家の柳田邦男さんが、「一人称の死は無い、あるのは2人称(あなた)、3人称(彼、彼女)の死だけ」とおっしゃっていました。「死」がそうであるとすれば、「復活」もまたそうなのだろうと思います。

会長の告別式が終わり、棺昇の役目をいただき藤野興一の重さを身体で感じながら霊柩車へと一緒しましたが、この重

みはあるのに藤野興一はもつこの世には居ないのだと涙が止まりませんでした。

ところで皆さんはチャットGPTをご存知ですか。会話型AIサービスで、15世紀に発明された活版印刷術と同じくらい社会に影響を与えるだろうと言う人もいます。既に使っておられる方もいるのではないのでしょうか。私も試しに使ってみました。口下手の私はAIとの会話も下手なのか、問い掛けても納得出来る期待した「目から鱗」的な回答は返って来ませんでした。考えてみたら、AIはインターネット上の情報等の既存のビックデータを基に学習し回答を作り出しているのですから当たり前なのかも知れませんが、特に私のような国語が苦手な(元々文学に答えはないのですが)、深読み捻くれ読みする人間には不向きなのでしょう。私に一番じっくり馴染むチャットGPTは、やはり私の人生の歩みに多大なる影響を与えた藤野興一と私の関係性の中から得られたデータを基にヒントを与えてくれる「興一じじちゃんチャットGPT」のようです。問題にぶつかった時、「興一さんだつたらどうするだろう」「興一さんはどうされますか?」と考え問いかける私がいいます。私だけではなく、この学園だよりの読んでくださっている皆さんの心の中にも、皆さんそれぞれ藤野興一との関係により力添えされた「興一じじちゃんチャットG

PT」をお持ちなのではないでしょうか。だとすると、私や皆さんの心の中に、藤野興一は復活して居るのだと私は思います。

藤野興一は今も天国で安らかに休んではいないと思います。「休んでください」とお願いしても、この世でもそうであったように休まないでしょう。神を信ずる者に神は居るように（残念ながら、私は今も無神論者、自然を人格化はしない派の自然崇拜者ですが）、藤野興一は私や皆さんの中に復活し共に居て、今も苦業を共にしてくれていると私は感じます。皆さんもきくと感じておられるではないでしょうか。

## 事業所内保育施設

事業所内保育施設

### 皆が安心できる 場所になるために

チーム長 田中 微美

とりっこらんどは事業所内保育施設として、主に法人に勤める職員のお子さんを預らせていただいています。職員が結婚や出産をした後も、引き続き学園で働いてもらいたいという亡き会長の思い

によって、年中無休の保育所としてつくられました。その思いには、困っている人に寄り添い、職員一人ひとりのことも考えておられた亡き会長の愛が込められている気がします。生活スタイルや環境が変化しても、学園で仕事を続けたいと思う職員だけでなく、多様な働き方をしている地域の方々の子育てを支援しています。

3月に4名の卒園児がとりっこらんどを巣立ちました。0〜2歳児までの約3年間を一緒に過ごしてきた日々を思い返し、入園当初は小さかった子どもたちが大きくなり、たくましく成長した姿を見ることができて胸が熱くなる思いでした。何より、子どもたちの成長をそばで支えてこられた保護者（職員）の方も3年間の出来事が思い出され、胸が熱くなられたのではないかと思います。

保護者（職員）の方は勤務時間や勤務形態が様々なので、ご家族や祖父母の協力を得ながら子どもたちの送迎をしておられます。子どもたちをお迎えの際に、「会いたかったよ」「遅いよ」「お母さんがいい」「まだ遊ぶよ」「いつ（ママ）帰ってくる？」など、自分の気持ちを伝えながら嬉しそうにハグをしたり、時には涙を流します。また、自分で履ける靴や靴も甘えて履かせてもらったり、歩けど抱っこを求めたりと可愛らしいで



子どもたちの状況は様々ですが、環境の変化による不安や色んな気持ちを受け止めながらも、活き活きとした笑顔をを見せてくれる子どもたちをこれからもそばで見守り、支えていきたいと思っています。

保護者の方には、家でのお子さんの様子や思わず笑ってしまうようなエピソードを聞いたり、子育ての悩みや仕事と子育ての両立の大変さを聞くこともあります。お子さんを大事に思う気持ちに共感しながら、保護者の方の気持ちに寄り添うことの大切さを感じています。法人を支える職員やそのご家族をサポートし、柔軟に働くための環境を整えることは、社会的養護を必要とする子どもたちの継続した支援や安心・安定にも繋がっているのかもしれないと思うと自分の役割を考えます。

## 法人事務局



事務局次長

上田 照彦

令和6年4月1日付で事務局次長に就任いたしました。

法人全体の運営をスムーズに進め、より良い人間関係を築けるよう努めていきたいと思っています。今後ともどうぞよろしく願います。



事務員

下田 莉緒

5月よりお世話になっております。

今年の3月に高等学校を卒業したばかりの為、社会経験も少なくご迷惑をおかけしてしまつこともありますが職員として精一杯励んでいきたいと思っております。よろしく願います。

# 当学園事業へのご寄付 後援会へのご加入に 感謝申し上げます。

前回報告以降、現在まで、ご寄付いただいた方々、後援会に賛同（会費納入）していただいた方々は、下記のとおりです。

心より感謝し、ご報告申し上げます。

## 寄 付 者 (R 5.11.1 ~ R 6.4.22)

敬称略

氏 名	氏 名	氏 名	氏 名
(医) たなか小児科医院	大 塚 福 子	高 力 房 枝	田 中 和 子
愛真幼稚園 園児一同	岡 田 博 子	国際ソロプチミスト鳥取	田 中 耕 自
相 見 壽 子	岡 本 智 鶴 子	小 竹 原 寛	谷 口 勝 也
秋 崎 り 子	小 川 尚 美	小 橋 房 子	タニグチ・ヘア・サロン
浅 野 和 子	尾 崎 信 一 郎	小 原 隆 三	谷 島 伸 二
安 達 裕 見 子	尾 崎 美 幸	小羊チャイルドセンター	田 淵 陽 子
荒 尾 雄 二	尾 崎 俣 子	小 羊 教 会	田 村 明 子
生 田 百 合 子	尾崎歯科クリニック	小 屋 本 悦 子	田 村 明 長
井 口 壬 生	片 村 俊 子	近 藤 明 紀	田 村 利 江
幾 野 裕 昭	加 藤 和 徳	齋 木 一 彦	綱 島 健 之
池 上 聡 一	加 藤 由 紀	齋 藤 明 禎	天 徳 寺
池 本 夏 樹	株式会社 三協レンタル	齋 藤 智 子	藤 内 正 樹
石 川 俊 浩	株式会社 信勝丸漁業	齋 藤 光 實	鳥取医療器株式会社
石 谷 充	株式会社 タブチ	齋 藤 光 實	鳥取県教職員組合東部支部
いしど歯科クリニック	株式会社 徳田商店	栄 枝 朋 子	鳥取県現代詩人協会
井 須 尚 紀	株式会社 アベ鳥取堂	酒 巻 佐 代 子	鳥取県労働者福祉協議会東部支部
磯 田 教 子	株式会社 ウィード	澤 義 幸	鳥取市立城北小学校
磯 田 隆 明	メ デ ィ カ ル	山 陰 冷 暖 設 備 (株)	鳥取新生教会
一 心 館	株式会社 コタニ	柴 田 和 仁	鳥取友の会
伊 藤 継 俊	株式会社 トータル	清 水 雅 彦	鳥取保護区
伊 藤 祥 子	エ ナ ジ ー オ オ タ	ジ ャ パ ン 観 光	保護司会第二分区
伊 藤 文 代	株式会社 トリベイ	正 林 督 章	鳥取ライオンズクラブ
乾 武 久、 瑞 枝	株式会社 ニシオ	白 井 道 子	富 山 佳 代
井 上 康 夫	株式会社 葡萄家	新 矢 梢 夫	鳥 山 玲 子
井 本 義 孝	株式会社 保健企画	末 益 裕 香	中 尾 文 裕
入 江 順 子	ひ ま わ り 薬 局	杉 村 英 子	中 嶋 哲 一
医療法人 岡本小児科医院	株 式 会 社 丸 十	寿 司 江 戸 吉	中 村 健 二
医療法人 三木眼科	株 式 会 社 ミ ナ ミ	鈴 木 洋 平	中 本 久 美 子
医 療 法 人 き む ら	コ ー ポ レ ー シ ョ ン	綜 合 印 刷 出 版 株 式 会 社	中山小児科内科医院
耳 鼻 咽 喉 科 医 院	株 式 会 社 ヤ マ ネ 機 材	高 瀬 海 二	西 尾 英 樹
医 療 法 人 さ と に	亀 本 良 一	高 橋 伊 佐 夫	西 上 洋 治
田 園 ク リ ニ ッ ク	河 口 欣 微 子	高 橋 京 子	仁 保 統 博
岩 崎 薫 一	河 妹 宏 太	タ グ チ レ デ ィ ー ス ク リ ニ ッ ク	西 村 照 子
岩 崎 陽 一	木 本 裕 治	竹 内 和 樹	日海通信工業株式会社
岩 田 美 代 子	麒 麟 の ま ち	武 田 信 照	日本キリスト教団
岩 淵 明 美	想 造 プ ロ ジ ェ ク ト	竹 本 芳 宏	日本基督教団 鳥取教会
上 島 武 晴	草 野 雅 昭	竹 森 香 理	日本基督教団 米子教会
江 谷 孝 明	沓 野 一 誠	武 安 泰 雄	貫 名 安 子
オ オ ウ ラ マ ナ ミ	桑 村 達 也	唯 中 聡 太	野 村 卓
大 島 義 典	敬 愛 興 産 有 限 会 社	田 中 昶 修	橋 詰 隼 人、 一 枝
大 塚 元 也	光 田 澄 子	田 中	

氏名	氏名	氏名	氏名
端 詰 英 俊	福 田 眞	三 木 康 二	(有)家電のきのした
長 谷 賢 二	藤 井 重 明	みどり園保護者	有限会社 奥井製作所
畑 山 博 史	藤 井 秀 樹	みなみ歯科医院	(有)鳥取システムサービス
八 村 輝 夫	藤 原 栄 治	村 上 悦 子	横 山 房 子
花木こどもクリニック	藤 原 毅 芳	村 上 収	吉 田 由 美 子
濱 田 久 美	古 川 潤 一	邨 上 啓 子	吉 野 朱 実 卜
濱 本 五 十 鈴	古 田 稔 雄	村 山 嘉 次	リ セ ッ ト
濱 本 英 機	弁護士法人菜の花	森 田 元 章	龍 福 寺
林 眞 弘	ホットほっとクラブ	八頭更生保護女性会	若 木 太 郎
はやし社会保険	堀 いづみ	安 本 妙 子	若 桜 柿 坂 医 院
労務士事務所	前 田 悦 子	矢 田 さ つ き	渡 邊 健 次
原 井 た き 代	前 田 俊 和	山 口 ひ ろ み	巻 田 豊
原 田 潤 哉	前 田 宏 子	山 下 学	郡 ひ ろ 子
パルス電工有限会社	前 田 美 喜 子	山 田 太 郎	綱 島 健 之
半 田 卓 実	前 田 洋 子	山 田 敏 明	市 谷 年 弘
広 谷 笑 子	前 田 医 院	山 根 茂	水野商事株式会社
福 寿 み どり	松 岡 義 人、 朋 子	山 根 青 果 株 式 会 社	藤 原 毅 芳
福 田 明 彦	松 永 陽 明	山 本 智 丈	難 波 幸 矢
福 田 健	眞 鍋 裕 亮	(有)赤山建築設計事務所	

物 品 寄 付 者

(R 5.11. 1~R 6. 4.22)

敬称略

氏名	氏名	氏名	氏名
リビングインピース	日 本 鏡 餅 組 合	セブンイレブン	株式会社 クロカワ
代表 中里 晋三	理事長 樋口 元剛	雲山店 岡村 政樹	黒 川 藤 太 郎
米 田 正 雄	鳥取南更生保護女性会	信 夫 君 代	株 式 会 社 ぎ し き
米 澤 澤	会 長 山 田 曠 恵	し の ぶ	田 中 将 樹
世 瀨 啓 人	鳥取市宮下小学校	澤 政 幸	(株)Daska&Desiree
山 本 友 理 子	鳥取市東商工会	佐々木 泰 子	金 森 興 太 郎
矢 部 芳 子	鳥取市修立小学校	斎 藤 正 七 郎	小 川 尚 美
安 本 一 徹	鳥取更生保護女性会	コモカフェアンドベイク	大 浦 ひ と み
門 司 利 佳	鳥取県中小企業団体	小 林 千 恵	遠 藤 治
森 田 暢 子	中央会 上根 幸蔵	黒 川 竜 次	エフピコ上田(株)鳥取支店
松下 恵 輔	鳥取鶏卵販売(株)	倉 元 麻 美	岩 瀧 明 美
益 田 大 輔	鳥取キルトクラブ	公 文 山 田 さ ん	入 川 絵 美 子
眞明庵 松本 俊瑛	戸 倉 淳	国 岡 啓 介	井 上 恭 子
福 田 養 蜂 場	徳 田 商 店	ぎんりんグループ	池 本 恵 美 子
フィリップモリス	土 井 倫 子	ゼネラルマネージャー 田中 美範	浅 井 富 美 子
ジャパン合同会社	手 作 り ス タ イ	行政書士砂場隆浩	明 石 美 晴
ヒラノ薬店 山本 静彦	プロジェクト 和田	事務所 山口 エツ子	U F O 吉 方 店
八 口 一 ズ	手 作 り ス タ イ	川 上 剛 正	U F O 叶 店
橋 本 泰 明	プロジェクト 佐藤	(株)トーヨーショップ丸山	U F O 扇 町 店
橋 本 一 都 淑	田 中 仲 雄	株 式 会 社 み ず ほ	U F O 秋 里 店
野 田 徹	田 中 進 樹	株 式 会 社 フレーベル館	N T T 印 刷 (株)
日本ベビーフード協議会	大 樹 寺	株 式 会 社 トータル	データービジネス部
日本出版販売株式会社	第一生命保険(株)鳥取支社	エ ナ ジ ー オ オ タ	Luna's Frontier 橋本
中 嶋 亮 二	全国チャンメリー協同組合	株 式 会 社 準 組	
	白 田 仁	河 本 準 一	

法人本部よりお知らせ

2024年度もよろしくお願ひいたします



理事長・鳥取子ども学園 園長  
藤野 謙一



副理事長  
田中佳代子



常務理事  
山本 隆史



鳥取子ども学園希望館  
館長 水野 壮一



事務局長  
山根 章明



こころの発達クリニック  
院長 川口 孝一



鳥取みどり園  
園長 西垣 恭子



鳥取子ども学園乳児部  
院長 竹中 成代

OB・OG会を開催いたします!!

OB・OG会を下記の日時・会場で開催いたします。

日時：8月14日(水) 午後6時～ 会場：希望館教育棟研修室  
たくさんの参加をお待ちしています。



●従前どおり銀行口座へのご寄付は下記へお願いします

法人本部：〒680-0061 鳥取市立川町5丁目417番地 鳥取子ども学園内  
TEL 0857-22-4206 FAX 0857-23-0242  
代表メールアドレス：toriko@tottorikodomogakuen.or.jp

振込口座：郵便振替 01490-9-9106  
鳥取銀行本店営業部 普通預金 7645611  
山陰合同銀行鳥取営業部 普通預金 3422812

口座名義：社会福祉法人鳥取子ども学園 理事長 藤野 謙一

※なお、郵便振替は寄付金・後援会費共通口座となっておりますので、寄付金・後援会費のどちらかに○をしてご入金ください。

また、銀行振込の際は領収書発行のため、お名前・ご住所をお知らせください。

●後援会会費は下記へお願いします

振込口座：鳥取銀行本店営業部 普通預金 0405970  
口座名義：鳥取子ども学園後援会 会長 村上 亜由美

【お願い】

この「学園だより」は、当法人にご理解、ご協力いただいている皆さまに、施設での出来事、様子等を報告する意味で発刊しています。同封しています寄付金・会費の振込み用紙は、あくまでも皆さまの便宜を考慮してのことですので、ご理解いただきますようお願い致します。今後とも、当法人を温かく見守って下さいますよう、心よりお願い申し上げます。